

ご存知ですか「失語症(しつごしょう)」

ある日突然、あなたの家族が病気や事故により言葉をうまく使えなくなってしまったらどうしますか？言葉の障がいにはいくつか種類がありますが、今回はその中のひとつ、「失語症」についてご紹介します。あなたの家族がもし失語症になってしまったとき、どのように接したらよいのでしょうか。

1. 失語症とは？

失語症とは、脳梗塞・脳内出血などの脳血管障がいや交通事故・転倒などによる脳外傷によって、大脳の言語をつかう部分が傷ついたために起こる言葉の障がいをいいます。

2. 失語症になるとどうなる？

「失語症」というと「話せない」と思われがちですが、中にはよく話すが何を言っているか分りづらいタイプもあります。症状は傷ついた脳の場所などで違いますが、「聴く」「話す」「読む」「書く」といった機能に影響が出ます。

- ・相手が何を言っているのか分からない
- ・言葉を言い間違う
- ・文字や文が読めない
- ・字を書こうとしても字が思い出せない
- ・話そうとしても言葉が出てこない、
- ・上手く発音できない、
- ・何が書いてあるのか意味が分からない、

3. 失語症は記憶障がいではない

「物の意味」や「言葉の辞書」は理解しているのに、それらが上手く結びつかず混線・断線状態になっている状態です。例えば、「ハサミを取って」と頼んだのに「ハサミ？」と分らなかつたり。ハサミ自体がどんなものか分からなくなったのではなく、「ハサミ」という音と意味が結びつかなくなっているのです。

4. 失語症の方とのコミュニケーション

ゆっくり、はっきり、短い言葉で話す

ゆっくりと、大切な言葉を簡潔な表現で、強調しながら話すと理解の助けになります。私たちが英語を聴くときと同じような感じです。一度でうまく伝わらない場合は、繰り返し言ってみましょう。

会話は焦らず、落ち着いた雰囲気

顔を見て、お互いの表情がわかる位置で話しましょう。表情や声の感じが相手のヒントになります。また先を急がないで、相手が言おうとしていることを最後まで聴く姿勢が大切です。

話題を急に変えない

失語症の方は会話の最中、突然話題が変わると対応できず、混乱してしまいます。もし話題を変える場合は、そのことをしっかり伝えましょう。

「はい」「いいえ」で答えられる質問に

なかなか言葉が出てきにくい場合には、質問の方法を変えてみましょう。「どこに行きますか？」「どうやって？」ではなく、「駅に行きますか？」「電車でいきますか？」のように「はい」「いいえ」で答えられる質問にすると、答えを引き出しやすくなります。

ヒントを増やす

絵や写真を話に取り入れることは理解の助けになります。また身ぶり手ぶり、表情や声の調子も良いヒントになります。文字を読む能力が保たれていれば、文字を併用するのも良いでしょう。選択肢を提示して、その中から選んでもらう方法もあります。

失語症の方は、言葉はうまく使えなくなっても、それぞれの人間性というものは病前と変わりません。周りの人が失語症について正しく理解し、失語症の方が楽しくコミュニケーションをとれる環境を作っていただければと思います。